礫陵新聞
發行所
福岡縣若松市小石
若松高等學校
新聞部
發行人 西尾 正昂
編集人 大沢 守
西日本新聞社

各種スポーツ用品なら
運動具専門店の
ニュー・アポロへ
朝日座街

熱戰の委員長選擧

委員長に愛智君（三年）

正副委員長決る

生徒会新規約による初の正副委員長の選擧が五月三十一日の午後一時から南北両講堂で二齋に行われた、この日生徒の出足はすこぶる好調で会場入口の受付や、会場内特に待合所は混雑を極めた。立候補者は委員長二名、副委員長の男子部三名、女子部二名の計七名で委員長一、副委員長二の三席をめぐつて熱戰を展開し、約二千二百の有權者も投票期限の午後三時半までに各自の義務をはたし、選擧管理委員会による開票は即日完了した。開票結果は委員長に三年愛智君、副委員長の男子部に三年の一田君女子部に三年の森永さんと三年生が全席を占めて当選し、圧倒的な勝利を得た。（写眞は上から委員長の愛智君、副委員長の一田君と森永さん）

棄權わずか四・二%

鍵にぎつた一年生の票

三年の修学旅行などの障害で一向はかどらず日延べの狀態となつていた正、副委員長の選擧は五月二十九日の候補者演説會に始まり投票当日は、当落の鍵である一年の票数獲得に各候補應援者は躍起となり、混雑した会場入口には拾いものの大小黑板や、破れ長椅子の背面に大字を書き連ね、はては声をからして候補者の名前を絶叫するなど大わらわで数日後にひかえた参院選擧戰にかならぬ騒然ぶりであつた。開票は立会人が選管委員と某候補應援者の数名の静かな南北会場で行われ、北桜は最初に委員長から開票、愛智君二七七票対実吉君の二六四票をわずかだがリードし、南も四〇三対一八七と二度に二百余も開き終始愛智君優勢で票意当選した。副委員長は男子部において鷹取君（南四七、北一五六）と一田勝喜君（南六四、北一一〇）の二年候補は票が割れても倒れず当選圏外に落され次点の爭が精一パイだつたが結局絶対多数の七一三票（北一四九）を得て当選した一田君に五百余も開かれ、次点に鷹取君が上つた、女子部は当初より予想が困難視されていたが、開票も接戰を展開し北での最後の追い込みが功を奏し森永さん（北一二一、南三六二）が利田さん（北一七三、南一二五）を百足らずで副委員長に落着いた、三年勝利の影に一年の圧倒的支持の存在を見逃してはならない、今回は初の選擧にしては好成績で有權者総数一二一一名に対し棄權者は全体の約四・三%の五二名で、（欠席者を含む）開票結果の無効投票数は投票総数一一五八（南五九七、北五六一）に対し委員長が二・三%（北二〇、南七）副委員長は六・七%（北五七、南二一）と全く予想外の数字だつた、これらの無効投票を分類すると、眞剣に書いてはいるが今回が最初であり、投票用紙の複雑さと関連してあわてた投票組（八三）と、極く少数の生徒会に無関心な者のフザケ投票組（二二）の二種で、陣営は委員長用紙に副委員長の名前を重記したり、副委員長用紙に正副委員長を連記したりして会場の混雑で相当動揺した様子が見られ、もう少し会場を整備し、落着いていれば未然に防止できたと思われる。後者はさらに分類すると日本の俳優を用紙に記したのが四、俗人の知る和歌者五、理想的な候補者のきそ悲しき五、先生、候補者のニックネーム二、その他六、このうち北桜から十八名出ているのは一考すべきである。

選擧の結果は次の如し

▽委員長（無効投票二十八）愛智孝明（三年）六七九票　家令和昭（二年）四五一票

▽副委員長

男子部（無効投票六十八）一田誠次郎（三年）七一三票　鷹取國雄（二年）二〇三票　毎藤誠司（二年）一七四票

女子部（無効投票八十七）森永幸子（三年）五八三票　村田和子（二年）四八八票

混迷と失意より脱せよ

委員長　愛智　孝明

ぼくらはすべての意味において過渡期にある。流動と混迷に行く処を知らぬ現実の飽和、そしてこの個性の生成、しかしそれにしてもぼくらはすべての意味において過渡期にある。流動と混迷に行く処を知らぬ現実の飽和、そしてこの個性の生成、しかしそれにしてもぼくらは余りにも安易な白書夢を見ているのではあるまいか。苦悩のための苦悩――それは無意味であると共に最大の他何物でもない。と云えば混沌でもよい混迷と失意の中から、そこに積たゆる何らかの可能性を拾い上げなければぼくらは永久に救われないであろう。いわゆる学園の自主の確立云々においておやである。わが論過渡期の人間の負担はどうしても重くなる。けれども、それも次の後輩、社会に対する歴史的な責任だと思えば仕方がない。徒に姑息な諦観に、われて若さを失うようなことがあつてはなるまい。ぼくらは今こそ無実に出発しなければならない。不安、絶望、虚無、頽廢――そこにあらゆる障害が横たわつている。だがぼくらは若い、若さだけ――青年のみ持つ眞実な情熱だ。青年かぼくらの生命なんだ。青年から眞実さを除いたら何が残るだろうか。今こそぼくらは素裸の青年に返るべきだ。自主とか自由とか云々するのは末の末だ。ぼくらが本当の自分の姿というものに目ざめて力強い一歩を踏み出すときそこには美しい学園のすべてがあるのである。

誰かのことばにあつた『今日を生きて、明日にそなえよう』

論說

役員選擧に思う

若松高校の新緑尼以來すでに一年、初の新入生を迎えて、眞の高校制の第一歩が踏み出され新しい傳統と校風を培い、学園の民主化をはかるために去る六月三日生徒会正、副委員長の総選擧が行われた。その結果はすでに発表された今後のわれわれの代表として学校運営の重要な一部面にあずかることとなつたのである。一体、民主学園においては学校の権謀力の基礎はあくまで生徒でなければならない。この意味において生徒会の持つ意義は極めて大きい。極言すれば燃えあがる青春の情熱を、力を、伸張し、あらゆる方面に存分にして積極的に学校運営に参画しわれわれ生徒の力で学校をもり立てようとする意氣ですべての障害を圧倒し徹底は單に生徒のよきオブザーバーとしてわれわれに進むべき指標を與え助言、指導を行うものだとするのが至当なのである、こう述べて來れば生徒会の重要性は言をまたずして明らかであろう。いわんや、その主導權をおずかる委員長は学園の死活の鍵を握つているといつても過ではない。かかる重要なポストに選出された委員長、副委員長の責任はまた極めて重大である。生徒会が学校の推進機関となるか、觀風機関となるかは、一に委員会の主導權を握る正、副委員長の双肩にかかつている従つて委員長は從來の日和見主義的な無氣力な生徒会の空氣を刷料して、眞に民主学園の代表機関にふさわしい委員会をきずかねばならないその為めには確固たる信念をもち、ガッチリと旺をすえて自分が学校をもり立て横てやるのだという積極的な心構えを持つてもらいたいものである。

次に投票についてであるが今回は棄權も一割にみたずを総的には優秀な成績をおさめたようである。しかし有權者千二百名中には生徒会の意義を自覚せず極めて不眞面な投票を行つたり、立候補者をひぼうするが如き戯書を行つたものが多多見受けられたのは眞に遺憾であつた。彼等は常に口に学園の民主化を唱えながら裏面にまわつて不平不満をもらし、卑屈な方法で選擧制度を批判し容易な自己に甘んじ、眞の意味の学園の民主化をさまたげる虫であり優越に満足しているのである。かかる輩こそ学園の民主化をさまたげる虫であり、ひいては民主々義の敵でもある。彼等が校内から一掃されない限り到底理想の学園はきずき得ない。そのためには各個人がより一層自覚を高め責任ある觀點で事に処する習慣を養わねばならないのである、聞くところによると一年生の一部に『あの人は勉強がよく出來そうだから』などという理由で、投票したものが可成りあつたそうである。いやしくも高校生たるものが、かかる無責任な選擧をなお得々として行つているかと思うと唾々寒は極めて大きい。（大沢）

時事解說

耐え得るか日本經濟

昨年四月所謂ドツヂ予算成立とともに鮮かな安定恐慌の波が日本に打寄せることを予見し得た人は割に少なかつたのではあるまいか。貿易関係業者間には絶えず円レート引下げ論が眞剣に斗わされ、三六〇円レートに決定後、國際市場の形勢、すなわち昨年九月英國のポンド、非ポンド系二十一ケ國の一斉通貨引下げは円價を相対的にプリ上げポンド地帶への輸出は從來の價格では競爭上不利を生じた、これは輸出産業および関連産業の生産費引下げを不可避とし國内物價水準の一層の低落をもたらすから國内にデフレ的影響をおよぼす。財政面のデフレ化を金融面でカバーしてきたのが二十四年度の実績で四月から十二月までの市中銀行への日銀貸出増額は二千七百億となつて、日本の生産指数おそらく物價騰貴からみて多分にインフレ的と見られる。現実がデフレ深刻化の傾向を濃く政府の安定政策に対する國民の非難が高まるにつれ政府はデフレ要因が金融方面からカバーされたことをディスインフレの成功としている。これは政府にはやむを得ない立場として一應了解できないでもないが金づまりと税金苦の勤労者には理解し難い点である。大企業金融滞貨金融などで通過が減少しないことは自慢にはならない。理論的にも三六〇円レートをあくまで堅持しようとするのであればディスインフレは捨てるべきであろう。ドツヂ氏が昨年某氏に寄せた書簡中にも『こうなると何人も当面の滞貨のみを要求し根本的に價格引下げや物資の消化対策を無視して專横を益々悪くします……』果然リード予算課長によりもたらされたワシント／筋の見解では金融機関による信用膨脹警告の立場にあるといわれる。そこで政府および インフレ金融より健全金融に関する意向をほのめかしてきた。そうすれば幸不幸に拘らず、デフレ深化は避け難い処となる。本年こそ産業のみならず大企業をも脅かすに至るかもしれない。甚だ弱い日本経済にとつてその打撃は深刻なものであろう。昨年度採算のとれるようになつた企業もあるが石炭、鉄鋼、肥料など採算のとれない産業もある。さらに本年度補給金撤廃の問題もからんで企業合理化、人員整理、操業度引上、原價値の引下げに設備の近代化など経企業は生きるための必至の努力を傾けるであろう。街頭に食を求める飢えた人々、しんとして声ない疲れた農林、これに対して政策の施策は万全であるか。よつめく足どり日本経済が背負う八千万の重荷はここ数年では解消しないと思われるが果して日本経済が耐え得るであろうか。（山村）

郷土作家火野氏を顧問に

北九州高校文芸会発足

北九州五市、および田川、直方方面の十六高校の文藝部員を対象とする『北九州高等学校文藝会』発会式は六月十七日、小倉西高校に郷土作家、火野葦平氏を招いて行われた。この会はあくまで文藝に趣味をもつ高校生を主体とするもので文藝部員、および同好者が集まつて研究会を開き作品を通じて自己の向上を図ることを目的とし、顧問には火野葦平、玉井政雄、岩下俊作、劉寒吉氏等九州文壇の主要作家を、また事業としては毎年春、秋の二回、同好誌の発刊、文学講演、研究会を開くことに決定、午後七時過散会した。

なお同日発会式後『高校文藝のあり方』をテーマに火野氏を囲んでの興味ある座談会が開催された。なお、本校文藝部はこれに参加され、從來毎年出している『つぶて』を近く発行するに際し、本校生徒中より文藝作品を募集、優秀作品の多くでるのを心待ちにしている。

【火野氏談】こんな会が発足したことは自分達の中学生時代にくらべて隔世の感がある。非常に喜ばしい傾向であるが高校生は自分達だけがもつ宝石のように尊いものを失つてはならないと思う。

施設不足の中に勉強

―夜間課程―

若松高等学校夜間課程は昭和十八年四月に若松中学校に洞海中学校として発足したが昭和二十三年四月の学制改革で若高夜間課程となつた、その間二回の卒業生を出して本年三月までに新制高校卒業生を出した。

在学生徒の数は年々増加しており現在生徒数は二百四十名でその中一年生は一〇〇名で九十五名までは本年三月新制中学を卒業した生徒である、在学生の九〇%までが書間は天々市内の三十数ケ所の官廳会社、工場に勤務するもので、その中戸畑、八幡、中間の工場に勤務している人が少数ある、毎日天々勤務の後学校へ急ぐが書間の勤労の疲れも忘れて眞剣の姿には胸がうたれる。とくに夜間教育の困難の一つは厳寒の候で施設不足の中に勉強にいそしむのは弱がさがる。こうした中にも強固な意志と旺盛な向学心から四年を無欠席で通すものもいる。夜間課程が書間の課程とちがう点は授業を行う時刻がちがうだけで教育の内容、設備、教員資格などはすべて同じである。日曜を除いて毎夜四時間の授業を行い書間の課程と同様に八十五單位を修うとすれば卒業出來る、毎日四時間を費える授業を行うことは生徒の心身に極めて過重の負担をかけるので周到な調査の結果、修業年限は四年を基準とすることに決定されている。教科課程は書間課程の三ケ年間のものを四ケ年に配当され、卒業後には全く同等の資格が附與され新制大学への道も開かれる。優秀な生徒の新制大学への進学希望者は年々増加し本年三月は十数名あり経済的にも経済的にも困難な事情にありながらあらゆる障害を克服し栄冠をかち得たものは八名、夫々九州工大、山口大学、長崎大学、外國語大学、八幡大学に通学している、こうした人達は汗の結晶ともいうべき給料を貯蓄し続け大学在学中の学費にしようと計画して來た人である、これら夜間課程の青年は地域社会の生産に直接関係しほとんどすべてが学校卒業後も引続き奉職し社会の興隆に直接寄與するのである。

『原子力と科學展』

朝日新聞社主催

小倉かねやす百貨店で六月四日より七日まで『原子力と科学展』が開展された。展内では三部に別れ、一部は原子とよばれる物質の單位説明で大きさや集合の変化運動を説いてあり、二部は原子の中央にある原子核の構造、動き、発見の歴史を説明、三部は原子核の変化によつて現われる原子力の利用と人生との関係が図解されていた、本校の化学、物理、無線の各部持ち六、七両日にわたつて見学し興味深げに研究したがパノラマによる説明がなかつたのは物足りない感をあたえた（写眞は展内）

物理部B君談　この展覧会で現在話題にのぼつている原子についてくわしく説明されて勉強になつたが期待していたパノラマがなかつたので残念だつた。

化学部O君談　全然はじめてした今後、またある場合は殺人に実験や模型で大規模にやつてもらいたい

機械力と生活

朝日論説員佐田氏講演

さる五月十八日、南講堂で『機械力と私達の生活』の演題のもと旅行中の三年をのぞく一、二年の生徒に朝日論説員佐田三郎氏の講演が行われ、現在日本の経済の重要分は結核のため▲百年前迄で人類死亡の親分は肺病で、バルザック、エマーソン、キーツ、ブローニング、スティブンソンらもその被害者である▲あらゆる階級、年齢層を通じて襲した結核は社会にあまりに影響をなげたのでロマン主義時代の多くの文献に陰鬱に反映し『療病』はその中心課題であまり有名である▲この社会から悪慣視された結核もコツホの出現ではや人類の敵でなくなつたがかなめは用心▲先日北講堂で行われた結核に関する講演の際、生徒の態度は言語道断、せつかく立派な講演も水の泡▲先生も生徒をしかるわけにはいくまい。講演のエチケットをしらないのだから▲とにかく自分たちの講演を他人のもの位に考えて大きな口、大きな頭を左右上下に容赦なく動かし、とくに大きな口故、菓の吸殻もはげしく、周囲の人はたまつたものでない▲ある日の朝会に校長先生がしまりのないのを指摘されたが、いつになれば感るやらわれらは百年前の結核患者に比べれば上々の待遇にあることを自覚せねばならない▲彼らは注意しても治癒する法がなかつたが、われわれは結核もだが現在の落着きのない性質を相互にいましめ合い治療すれば完全に癒る▲結核も性質も感れば社会から学校、家庭から喜ばれるし、自己もうれしい▲だがそれを軽視し、積極的であつてはならぬ▲軍國主義下の生徒を丸々するものがいるが、それより一歩前進して自己のなるまいを考えるべきだ（W）

短縮授業を計画

午後は水泳を

最近本校生徒の長欠がとみに増し、その大部

来る七月十日から学校当局では初試みとして短縮授業が計画されている。授業は午前中で打ち切り午後は東西両小石海岸において、水泳練習をする

修學旅行感想記

戦争以来すでに二箇月余を経てその感想も次第にうすれてきつつある今ここにあらためてこの問題にあげ諸君の記憶を新にすると共に来年度の修学旅行の一助とするため、三年有志の感想を收時別掲として記載した。

式部を偲ぶ　須磨・明石

大内徳司

三宮→門司

思い出深い高校時代の修学旅行それは生涯忘れる事の出来ない楽しいものであろう。一週間の旅をするのだから、さすがは皆さん制服をつけ見違う程立派である。晴過ぎに吉畑駅から列車でなつかしい三松と離れた。家族の人人や親しい学友に期間の別れをし皆んなの心は思い思いに複雑であろう。四時過ぎにはいよいよ京都石の普通列車に乗り込み、見なれた九州を後に思い出の旅へと旅立った。快晴に恵まれて気も晴々とし始めて味わうような嬉しさを

て汽車は海岸に接近して走り夕暮れの海を見ていると和歌の一つ位は口ずさむところだが――I君の説明で夜の宮島の遠景を眺め眺め、平家の氏族の盛衰の歴史が数十の壁と暗黒の島影に秘められているようで思わずじっと見つめていた。やがて汽車は厳島について夜の十二時近くの事であるから、内も外も静寂として大きな駅の建物は色とりどりの繚乱として美しく浮きでて遠らかさへ感じさせた。原爆の地、廣島の光景で目に入るものは暗の中に明るく輝いている電燈の字と静かな駅の建物だけだった。そしてそこには平和な和やかな雰囲氣のみが私達には感ぜられた。ようやく汽車のつかれを若干に迄感するようになったのが吳あたりであった。始めのうちは汽力にあふれていた。みんな

名所舊蹟をロマンスカーでおっとりした京都

愛智孝明

京都

寝過につかれたとみえて思い思いに背を後にもたせたり、ねそべったりして疲れた顔をして寝ている。やがて列車が姫路に近くなると遠方左の山麓に白鷺を思わせる白鷺城が望まれた。時間過ぎていよいよ式部の筆による光源氏の物語で有名な須磨、明石の海岸を汽車はこころよく走り続けた。源氏の君が住みなれた都を離れてわびしい、かやぶきのあばらやに淋しい生活を涙と共に暮かなければならない姫はどこかしらないがこの近くであるらしい。山が海に迫って傾

斜をなし、海はすぐそこまでよせている。今では傾斜した土地の辺にも線路と海岸の間にも近代的な建築と白亜な美しい庭園を有した別荘が建ち並び、潮の美しさを増している。パレンダを建物との間からは海が見えて涼しく沖には漁船が浮いていた。明石を過ぎるころには日も高くなり列車の中もこの地方特有の大阪弁が聞えるようになり、大阪に近くなつた事が嬉しかられた。昼前に神戸をまとめて疲れきった身をささえながら裏通りのようにHIの宮のホームにおり立つた

一千一体ございます。一体に三千三体の観音像があり、佛の数三万三千三百三十三体でございます』堂の中央で老僧の説明をきく、その反対側があの通し矢で有名な所だが、昔よく雑誌で読んだ英雄利佐六八のことを思い出して少々懐しくあり物珍らしい。当内には数る所に『國宝』の立札と『火氣厳禁』の貼紙が目を射る。その白木の柱だけがあたりの暗黒色の机肌に似つかず妙にキザッぽい感じだ『年月ここに眠れり』というような妙な氣分になる。

△金閣△

金閣寺のことは今あつて一幅の絵画として忘れられない、まだ早い ヒサシが水面に反射して金閣の上層の板葺に金色にキラキラ輝く波紋を描いている。景色の美しさに眼惚れつつ恍惚と見ているとわれわれの先人感化なつている、かの謙譲の精神とか叡智とかいうことよりも、やっぱりこうして残されたものの多くの年月の経ることというようなものをしみじみ感じる。建物の軽快な構想は池の配置、楓樹、松の緑と相俟って他のこの種の建物に見られぬゆったりした感じを見せている。

▽仁和寺△

朝、宿でもらった京都案内図を頼りにバスの行路をたどってみたのだが何処が何処かわからぬようになったころ、仁和寺についた。徒然草にある仁和寺である。御堂の櫻は有名なものであるが花時をなどにつくべく、この寺ほど寂しくない寺は珍らしいとされているが成程、土塀も山門も何もない、ただ長い堂だけが鏡のように長々と横たわっているだけである。下から数えて『一、二、三……十段』の佛壇、西から東へこの堂内を通してギッシリ詰った千佛体が外の明り窓子を越してくる和やかなを受けて純い金色を浮上らせて同じ大きさに立並んでいる。その中央に一層大きい観音像が一体デンと鎮座ましましてあたりを睨べてどっかりやる『本当の名は運慶院、白河天皇の御造営にかかるもので

純白のヨット湖に浮ぶ

大戸睦子

比叡

私にとっては一度目の比叡だったが、幼い時の記憶が消えずかっていた時だけに今度の叡山行は、何か特別に意義あるもののやうに思はれてならなかった

ケーブルカーを降りて頂上まで僅か三十分足らずの登山も、午前中の京都市内見学で、相当疲れた後なので幽分苦しいものだった、山道から見下す緑景も肉体の疲労の前には氣分を重くする爲の陰に過ぎぬように思われ、折角の登山なのにと心では惜しみながら、山頂の塔のみが目について仕方がなかった、頂上の少し手前で私は一寸した遊園地をみつけた、ケーブルカーのない前に登った私は、この山上の遊園地など夢想もしなかったのに……。どぶ濁った頭に思い浮べながら機械的に歩を運んで行った、――そして遂に山頂に達した、頂上に達した時の喜びは正に湯舟が水を浴びたの感があった

私達は大津碼りを予定したので、そう長くここに休むわけには行かない、まず小店で一杯のアップル水にのどをうるほし、汚れた顔をていねいにハンカチでぬぐった後又一歩一歩と足を運ぶ、それは丁度未知の扇をそっと開く時の様な

おずおずとそして大きな期待と二つの心の動きを反映した妙な足取だった、――美しい――実に――が予想とは違った美しさだった、実際私は平凡な湖を期待しているのだ、今考えれば笑止な事であるが、あの瞬間は何かピッタリこないものがあった、とにかく眼前に横たわる湖水は女王の如く氣高く、

大阪城の拾石に驚く

すばらしい高島屋

吉竹順一

大阪

関西の名所今日が最後、近鉄大阪急行に乗って二時間近鉄上六駅に着く。こゝで暫時休憩の後、大阪城行き、道頓堀行きの二手にそれぞれ別れる。自分達は大阪城へ…交叉略を曲って廣壮大阪城へ向う。途中は大型のトレーラー・バスが往来し人の波を繁し街頭騒然としている

旧本丸の櫻門内に入るとすぐ蛸石と呼ばれる十余畳もある大石の石垣に接する十八米の高さまで全々手掛りというものがない、これではいにしえの荒武者も手を焼いたことであろうと思う、天守閣は昭和六年再造して外観は昔とほぼ同じであるが五階建鉄筋コンクリート造りで内部は層々としている種々な陳列品そのそいた後、最上層に上り大阪市一帯を眼下に展望する、さすがに人口三五十万を擁する商業都市大阪である強か彼方は低くかれた雲と大気が混とんとして灰色の層を形作っており震災の跡もいたいたしい市内にも活気あふれた市街のありさまがひしひしと感じられる。大阪滞在の時間は短い、あわただしい中を阪神ビルの地下鉄で心斎橋へ向う、大丸デパートの地階から上にあがり、右手の繁華街を眞直に道頓堀に出る貸ボートもあり思うたよりきれいだ、にぎやかな町並を流し目で見ながら時計とにらめっこで高島屋地階に入る、所がその繁雑しさにぎょうぎょうしている内に時間が足らなくなって一階以上はあきらめほとんど駆足なくなって二階以上はあきらめほとんど駆足で大阪の中心地を脇目もふらずに大丸へ、大阪駅へ今度は阪急ビルの地下ホームについた、時計台の下で待合せて関西汽船乗船場のある天保山行電車にのり大阪を離れる、在阪時間は五時間たらず、あまりにも無理な行程であった

王朝の祕史を想う

森永幸子

吉野

京都から吉野まで三時間もの間満員電車にゆられて、私たちは櫻花の名所吉野についた。

空氣はミルクのようにすい。五月のサンサンたる日光が金粉でもまき散らすかのように緑の葉からこぼれ落ちる。

眼が痛むほどの青翠の世界だ。いつしか初夏の影を映した大空にはこぶしほどの雲もなく、すみ渡つた白本晴れだ。氣のせいか、いつも眺めている山とはどこか違っているようだ。しかし私には美しいとは思えなかつた。これが天下の名所、吉野だろうか、出窟の元氣はどこへやら何だかさびしく心細くさえ感ぜられた。私たちには

殺風景な猿澤池

上地勝夫

奈良

奈良については何の印象はない数日来の暴雨と睡眠不足に、すっかり疲れきった身体と近鉄奈良に運んだのは夕やや西に傾くころであった。興福寺の五重塔を左にみて宿につく。荷物を宿に残し、疲れた重い足を引きずって奈良見学に出った。

猿澤池――『衣懸けの柳』などの傳説を持つ、かつては興福寺の五重塔と一幅の名画を形成していた。この池は今く殺風景な池だ。池そのものについていえば奈良

プールの方が余ほど氣が利いている。

奈良公園――この辺を、かつては春日野といったのであろうか。行けども行けども雑草たゆい芝生と樹、その木々の間に、あちらこちらに鹿が見られる。春日野神社、手向山、二月堂、大佛殿というコースをとる。

東大寺――境内に入ると世界一の木造建築と称せられるだけあって、堂々たる物である。

大佛なんかみたところで何にも

なるないと思ったが、来た序でだからみてやろうと思い大佛の手わりを一周する。ここにある佛像が藝術的にどんな意義があるのか、何にも知らないぼくには奈良の大佛でも、別府や鎌倉の大佛でも同じことだ。ただ珍らしいというだけである。

一風呂浴びて、旅の疲れを癒そうと思って宿に帰れば宿風呂は垢でどろどろに濁っている。胸がむかむかする。食事はといえば、いつまでもあつてこない。もつてくると数がたりない。

全く憂うつな奈良の一日であった。

青い珊瑚礁の内海

富田郁郎

大阪→別府

十五時三十分。鉄板を落したような蒼に、三色のテープで別れを惜し型二組の見送りを残して『ちみれ丸』は天保山桟橋をはなれ、僕達は三等船客となった。海は、船という感じも起させぬ程靜かで冷蔵を誘う。一時間半程で船は神戸につく。六甲山塊も右手に浪ぎグット高さの落ちた鷹取又は半にとびだしているのが和田岬。次第港内に入れば右舷はたむろする船の姿がみられ、左舷は中白草工や川崎の造船所のクレエンを眺めて船は中突堤に着く。五時半出港。船からの景色と暗傳されているが合にし負う須磨の浜も灰色に青い鉄拐を望むだけ。一の谷、塩屋、乗水、舞子、明石いずれも背後の山だけ。それより淡路島の偉観を眺める。眼前に島影が大きく拡がっている。日は未だ暮れない。船はここから淡路を左に見て南一下る。八時ごろ飲風と衝突したらしいとの話、船は大分がぶり出す。辺りは涼しくうす暗さがもやのようにたちこめ始める。デッキでも片足で立つとフラフラする程ゆれこきた。夕食後また甲板に上る。寒くてもう暗い。

眞暗闇をどこをどう走っているか分らなくなったころ、高松へ着いた。入ってきた導船船の明りが街の光と共に水の上でゆれている。十一時ごろまた暗い海上を疾駆し始めた。十二時を過ぎてから眠り、海面に歌声を流し、トモの航跡に淡い旅心地を味つていた。

魚雷ごろ寝で入り込む余地がない。合羽を借りて上甲板へあがる。唯もいないベンチ（ごろりと寝ころぶとそのまま眠ってしまった。一幾ぼくが過ぎると、ホンノリと冷く感する雨が顔を撫でていた。キャビンへ下りて機関の微動も感じぬまま夢の続行――朝起きて雑魚寝の友の足許にうずくまっている自分をみつけた。朝の内海の島は「青い珊瑚礁」を思はせる美しさだあと二時間で九州が見えるというころ、前方の海面を見るとイルカが右でも左でも水の上におどり出ていた。

やがて國東半島が現れて、船は静かに別府湾に入って行った。海は緑がかった青さに澄み切っていて波というものが感ぜられず、ネットリとした重みのある水が船の通つたあとにゆるやかに動いているだけだった。

他校便り

時計仕掛の弁当箱

生徒が時間前に中食をするという習慣を改めさせるためにある父兄から時計仕掛のランチボックスを作ってはという提案がだされている。このランチボックスというのは弁当箱に時計仕掛の鍵をつけたようなもので一定時間にならねば絶対に開けることができないようになっており、これによって生徒が時間前に中食を取るのを機械的に阻止しようというわけである

ただしこれはアメリカのこと、

デモクラシーのパノラマ実感せまるナイヤガラ

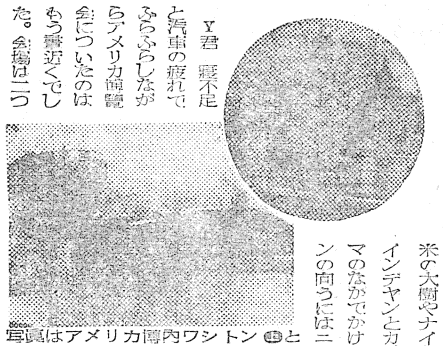
三組川崎良一

カ国リ会メ連

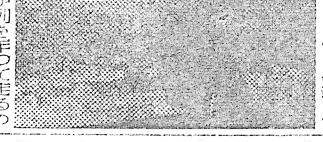
米の大陸のナイヤガラ瀑布がありインデヤンとカラボーイがパノラマのなかでかけまわりマンハッタンの向うにはニューヨークがみえていました。無限にビルディングがたちならびいかにも文明の國機械の國そして悩しい都という観念をたえます、睡眠不足の上に暑い日光直射をうけて余計ボンヤリしたぼくたちの目はパノラマに幻惑されて、どうしても本物のような氣がしてならず皆しきりに頭をふったり目をこすったりして不思議そうにみていました……。

正直なところなにだかあつけないそして非常に疲れた感じがしました。他の人はしらず少くともぼくにとってアメリカ像は別に大したことはありませんでした。日常本や映画であたえられていた観念の方がはるかに立派だったしそれに非常に疲れたからです。飛沫をあげているナイヤガラの岩がおきりきれいすぎていささか不自然な感じがしました。けれどもとにかくアメリカ像は立派で大きくそして盛況でした……。京都に寛慶さにいきます。そして宿であのコクトオ『アメリカ旅行記』を読んでみようと思っています。

Y君　寝不足と汽車の疲れでふらふらしながらアメリカ博覧会についたのはもう暮近くでした。会場は二つに分かれていて一言にしていえばなにもかも大きくていわゆるアップ・ソウ・デイトでそして第一回会場の正面にはホワイトハウスが写真でみた通りの姿でつくられています。内部には沢山の機械やクラフがきれいに陳列されこれをみれば現在のアメリカがいかに強大で立派でそして繁栄であるかということが一目で分ります。他にテレビジョン館それからゲーム場（はつきりいえば賭博場ですね）があり解説をただ立派だというだけで日本のと明らかなしで賭博心はいかに民主的に教育されたアメリカ人でもあつているものと思はれます、つぎは第二会場、ここは正しく戦争布アメリカ旅行の巻です。有名なT・V・Aがあり前



写真はアメリカ博内ワシントン館とニューヨーク市両市街



▽京都遊覧△

黄色のバスがズラリと宿の前に並ぶ、ロマンスカーだ。全部で十三台ものバスが列を作って走るのだから少々面白い。さてこれからおもむろに乗車して京都遊覧の次第となるのだが、最初印象に残つたものだけ思い起してみる。

▽三十三間堂△

平安――清水と回って三十三間堂につく、この寺ほど寂しくない寺は珍らしいとされているが成程、土塀も山門も何もない、ただ長い堂だけが鏡のように長々と横たわっているだけである。下から数えて『一、二、三……十段』の佛壇、西から東へこの堂内を通してギッシリ詰った千佛体が外の明り窓子を越してくる和やかなを受けて純い金色を浮上らせて同じ大きさに立並んでいる。その中央に一層大きい観音像が一体デンと鎮座ましましてあたりを睨べてどっかりやる『本当の名は運慶院、白河天皇の御造営にかかるもので

演説プレシデント

アメリカ博第二会場のワシントンホワイト・ハウスの前で『君氣どったポーズで『レディフ・アンドゼントルマン、この度不肖私が光栄なるUSAのプレシデントにセレクテッドされました以上』これにはどうもトルーマンさんがなきます。

レディファースト？

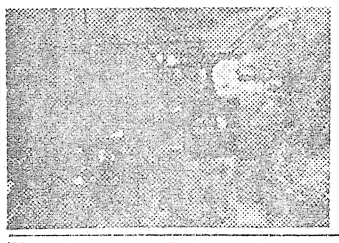
旅程も第四日ともなれば男子は遊日遊夜の奮斗？のためフラフラ、二方女子は毎晩時間通り帰つくるので少なくとも氣健康歩く途中ヘタバツタ男子、

旅行余滴

松の緑、芝生の緑まつたく奈良はわれわれお上りさんには桃源境、その情景にみとれて空腹を感じたのか手にしていた定鹿センペイをウツカリパクリ…シカジカ白眼青眼のことし

鹿センペイの味は？

山に別れを告げる、下りのケーブルカーにのるまで二、三の羅物を買うのが二の楽とは唯三井寺が心にこびるだけである



京都から吉野まで三時間もの間満員電車にゆられて、私たちは櫻花の名所吉野についた。

栄冠をめざして

〃性狀の異なるものが互に間を合つている事は良くない結果を招くよ〃

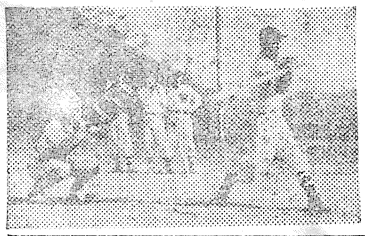
栄冠をめざして　公式戦の跡を追う

酷暑の夏を迎えて、校友会運動部の活躍はいよいよ最高潮、連日の猛練習とうきつきに展開される公式戦に、若高生の意気をかけて奮斗する若人の意気はいやが上にもあがつている。すでに野球部では六月上旬から開始された、筑豊地区大会に優勝戦に残るなど、卓球の出場手権大会にも優勝しているなど来るべき第五回國体予選をひかえて、一層の活躍が期待されている。つぎに五月からすでにはじまつた各部の公式戦における戦績をふりかえつて、明日への斗いの一助にしようと思う

優勝戦に惜敗す

筑豊地區高校野球大會

北部予選近く開始



全國高校野球大会北部高校野球の花である全國高校野球大会は八月十三日より五日間甲子園球場で行われるが、それに先立ち各地区の予選はすでに東京地区をトップに矢々開始されている。福岡地区は例年の通り南北地区に分れ本校は抽籤の結果、クジ運に恵まれ順調に行けば一昨年に引続き今年も北地区のベスト四に残るであろう。組合せは次の通り。

田川西高 田山田高
筑上西高 刈田高
筑豊高 若松高
洞南高 北筑高

六月四日から飯塚球場で開かれた筑豊地区高校野球大会に出場した本校野球部は田川、中央、鞍手、飯塚商業高校を次々に打破つたが悪天候で延び延び対嘉穂高校との優勝戦は七月十一日行われ惜敗した

二回戦　若高6—1田川中央
三回戦　若高3—0田川
　　若高0—0阿部—沢木　投手—捕手
　　鞍手0—1武井—前原
　　若高10—1鞍手
　　若高2—0阿部—沢木　投手—捕手
　　鞍手0—0武井—前原
三塁打　後藤　二塁打　坂本
二回戦　若高4—2飯塚商
　　若高　37打　12安　2振　7四　2失
　　鞍手　28打　12安　1振　11四　1失
三塁打　坂本　二塁打　管、後藤
三回戦　若高　37打　9安　6振　4四　3失
　　飯商　29打　6安　4振　5四　3失
　　阿部—沢木　投手—捕手
　　有富—竹川
三塁打　坂本　二塁打　管、後藤
優勝戦　嘉穂2A—1若松
　　若高　30打　5安　1振　1四　1失
　　若穂　30打　5安　1振　1四　1失
　　阿部—沢木　投手—捕手
　　若高　27打　6安　9振　6四　0失
二塁打　石田(若)吉川、鶴川(嘉)
先攻の本校は六回に入り二死後トップ打者中島四球に出、石田の左翼越二塁打で生還して活気づき盛勝するかに思われたが、七回裏嘉穂高校の二塁打で逆転されたが、各部共に固持してゆずらず会議は延長し、それまでの各部の提出予算の中の減少申出額が減少予定額の五分の一、二千万にしか

師の雑談を熱心にきく

自由の域を越した生活

若高の歴史 5

第一期生　篠原　政享

若高の前身若中が創立されたのが大正七年で今大正七年で今の三中昔の男子高等学校の一教室をかりうけて若松市立として創立されました。翌年青の若中に移轉しましたが荒涼たる荒野原であつて全く殺風景なものでした。初代校長は鳥の研究家として有名な川口先生で常に『青年よ大志を抱け』とさけばれていました。時間のひまなときは体軍十八貫の先生が鳥の研究に熱中されて大木の梢にまでのぼられて鳥の巣の研究をなされた逸話などを詳しく話されておられたことをよく記憶しています

また創立当時のこととて十分な学習も出来ず毎日いまの深町基地に幼い松を堀りに行つて校庭に植えていたことを覚えていますその結果が余りおもわしくなかつたので校内のトンネルで有名な櫻の木を植えるようになつたのです、あの美事な櫻の花の満開なのをみるにつけ創立当時のことが優しく思い出されてきます、校舎も卒業までに充分まにあわず五ケ年間に運動会とてもなく僅かに卒業式を雨天体操場にて行なつたくらいです

苦中の五ケ年間をくりかへつてみますに欧州大戦後の影響をうけて自由主義の熱が高く（その当時は余りそんなことには氣がつかなかつたけれども）矢張ではありますが資格経験共にすぐれているよい先生方は少なく先生の人数も常に不足がちでその上に先生方の移動が甚だしく、そのたびごとに雨天体操場で度々先別式をしたことなども記憶しています、おまけに若い者の氣にいる先生方が多く各教科共に学習中にいろいろの雑談やつまらぬ話をされることが多くれの当時は大変愉快で熱心に話を聞いたものでした

けれども今から考えてみると何ともいえない、つまらなさを自分ながら感じるのです、自由主義の先端を行かれる先生方は女学生に手紙をやる秘訣等について詳細に説明されて拍手をうけられていたようなことを、おぼろげながら記憶していまして真に自由な民主的な教育であつたと感じしていますがその当時は非常に愉快でしたが、しかし熱心で学究的に教育をうけた先生方も沢山ありまして教育者の一人となりました私としましては常に心につけ常に教育上の参考となることが多いと常に反省して自分から戒めている次第です

或時は生徒をそそのかして同盟休校を進められることもありましたが決行までには至らずして卒業しましたが若中同盟休校の記事となつて新聞紙上を賑はしたものですしかし野球テニス等の運動は好成績ではなくとも毎年明治専門学校に出場して若中健児の意志を示していました、三十数年前をふりかえつてみますに自由主義の盛な時代とはいえ全く自由の域を越していた点が多くあつたと思いますがそれが生徒一同の意氣に投合していて今日から顧りみれば恥つかしい思いがします

学生時代は個いことよりもやわらかいことの方がねかれがちでありますが『鉄は赤いうちに鍛えよ』とかの如くに若の中学生時代今の新制中高校の時代に充分に自由に伸び伸びと凡ゆる方面に伸長されると共にある方面では十分に鍛錬される点があつてほしいと今更ながら感じるのであります

先日『自由と規律』という書物を読みましたがイギリスのパブリックスクールの教子が詳細に説明してありました、イギリスのパブリックスクールでは全員が寮生活で驚くほどに鍛錬されている様ですし学習でも運動でも規律方面でもですし然し一年生として大学へ進めば全く反対の紳士的取扱をうけるそうです、鍛錬される時期には鍛錬され自由の時期には自由に天地に翼を伸ばしたいものとの考えでしょう

自由の叫ばれる今日イギリスのパブリックスクールのあり方他山の石として若松の礫陵諸君！三十年前のつまらぬ思い出話を勉強つかれの際のお茶一服に代用されて身体も精神も十分鍛錬されまして大いに若高の寮歌を示して下さい

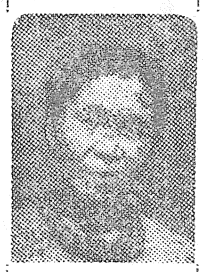
若高柔道同好会新人戦に蜚起す

先般来、校友会に柔道部設置の運動をしていた本校柔道同好会は四月の若松、八幡、小倉三高校柔道リーグ戦に優勝して意氣昂揚したが、柔道部設置の期待に破れ、一時は練習をおこたつていたが、最近、七月初に前記の三高校柔道新人戦開催の朗報に再起、放課後老松町の昭和クラブ道場で主将大庠初段以上三十余名の若人は、猛練習につとめている（W）

〃賣店の伯母さん〃古巣を去る

涙と共に十年間を回顧

元氣盛んな青少年のみの旧若中時代から男女共学で和氣靄々の若高時代にわたる長期十年余の間、変轉する本校歴史を校門前の櫻、玄関前の鳥瞰像とともになかめ、守り築いた賣店の伯母さんの愛称をもつ釜崎さん



写真は釜崎さん

昭和十五年五月より、旧中学の親切な賣店の伯母さんとして生徒に便利をはかつてくれたが、今度学校の事情と伯母さん自身の方針の変更により十年間の古巣を立ち去ることになつた。伯母さんは感慨無量の涙で涙とともに、私ははじめて学校のお世話になつたのは十年一昔でした、そのとき私は初めて涙を始めて多くの人が賞いにやつて来るとまごまごして、つり銭を返すにも、たいへん困つたなつて行くであろう。

昔の伯母さんの眼から見た現在の学生と終戰前の型には違つた学生との感じをうけられてみたところ『私も共学になつて皆さんがどんなであろうかと心配しましたが、本当になごやかで氣持がよいような氣が致します。でも前の学生は試驗になると、とても真面目で廊下を通る時でも置語カードを持つて歩いたりしている方等を多く見かけましたが現在の学生さん方は余裕があるのか、とてものんきでいらつしやいます。

戰時中のことですが、先生方が生徒をお叱りになるのを見るとはじめのうちは身ふるいがして、かくれる程でしたが当時の学生さん達の氣持も現在の学生さん達の氣持も、ちつとも変らないようです。どのような環境にあつても学生さん達は学生時代を楽しくなごやかに過ごそうという氣持があふれているのですね』と語つた。

永野先生や定司先生の中学生時代にもいたという古い伯母さんとの別れに何がしら心淋しい氣がしてやまない。

学校の下に店を出されるということが今後の繁栄をいのつてやまない次第である。（矢根記）

ヒューマニズムの回想

今泉　義則

戰後の虚脱から新しい世界によみがえろうとするとき、われわれの前に高く掲げられ、強く叫ばれたものは『文化國家の建設』であり『新日本の建設』であつた

しかしわれわれは文化國家の建設や新日本の建設もヒューマニズムに基かねばならぬことを忘れてはならない

ヒューマニズムは遠くローマ人のヒューマニタス（人間性）の名を以つて呼んだところに起因している、その核心は人間を愛し、人間に深い関心をもつ態度である、かのローマのアウルス・ゲルリウスは『アッチカの夜』の中で、ヒューマニタスの意味をつぎのように説明している。それによれば『ヒューマニタスはギリシャ語のピラントローピア（人間愛）に当るが、古い用語からすればパイデイア（教養）の意味に近い』とのべている、教養とは立派な人、すぐれた人をつくるためのもので、それが立派な市民、立派な國をつくることになるのであると考えていた。そしてローマ人に継承せられたヒューマニタスはこのような教養を内容とするものであつた

しかし、人間性を人間の弱点に求めて、弱点を共有する所から人間としての同類感を呼び起そうとする方向にヒューマニズムの求められることもあつた。人間性をいかなる人ももつことのできるような低い所に求め、そこにあらゆる人間を結びつけ、廣い範囲にわたる人間愛が生まれてくることを期待した。しかしながら低きに求める人間性の究極は人間性の否定となつて、弱点を共有する所から人間の同類感を呼び起そうとするものであつた。人間性を高きに求めたギリシヤ時代を相起する。

さらに人類史上輝しい文化を形成したルネツサンス時代を、そこには人間性の理想を高く掲げるヒューマニズムがみちみちていた。藝術や学問や道徳の各方面に偉大な天才は輩出し、彼らによつて眞、善、美の具体的内容は実現せられた

それは理想としての人間性を表象するものであつた。かくしてその高める努力こそギリシヤ人の呼んで神としバイデイアであつたのである。眞、善、美の実際に存するものに触れて自己を『より人間的』ならしめる努力によつて高い文化は高められて行つたのである

高きに求めるヒューマニズムこそ文化発展の源流である。西欧のヒューマニズムの空しい傳統に比してわが國にはヒューマニズムの傳統はしかもたない。明治初期における自由民権の動きは燎原の火のごとく見られたけれども、先駆的なものをなすにとどまり、大正中期のそれは自由主義の黄金時代の現出とはなつたけれども、やがては漠然たる刀鋒に同調を留めたにすぎない、わが國におけるヒューマニズムの動きはその歴史に浅くその力において微弱であつた、しかしわれわれはいつまでも過去のとり口となつてはならない、空しき歎ずよりも現在におけるわれわれがいかにすべきかが重要である人間性の昂揚せられるところヒューマニズムの栄えゆくところそこに再生があり、ルネツサンスは輝く（筆者は本校教官）

美しい歯

九州鋼材大厚生部　右田　昌秀

明眸皓歯という言葉があつたが歯の美しいということが昔から美人の一つの要素であるらしい。というのは、一般に顔の美しい醜いということは、人々の好みによつて、随分まちまちであるが、いはゆる顔貌の調和――眼も鼻も口元も均整のとれた、生々した健康美の溢溢たる顔が、なによりも人々の心を引きつけるといはれているようである。その顔貌の調和のうえに大切な役割を演じているのは顎骨とその上にならんでいる歯ということができるからである。それなら美しい歯とはどんな歯かといえば豈に透き通るような白い歯がよいとはかぎらないのである。西洋人は褐色の髪に碧の眼に白い皮膚の持主であつて、その顔に調和する歯は、やや青みがかつた白歯であるといわれているが、黑い瞳、黄色い皮膚の日本人には、むしろ黄白色をおびた歯の方が、調和するといつたほうがよいかもしれない。それ相應に調和のよい歯が必要である、人にはその人特有の歯の色がある。黄白色を雪のように白くしたいと考えても所詮はだめである。粗雑な結晶の多い歯瞬をもちいて歯の表面のエナメル質をくらしてしまえば、一時は白くなつた氣がするが、すぐに歯垢や歯石など汚濁してふたたびうす汚い色となつてしまうのである、醜い歯として人に不快な念をあたえるのは、歯の表面に食物の滓がたまつていたり、歯垢がついていたりするとムシ歯ではないが、はなはだしく醜悪な感情を抱かせるものであるまことにわれわれの歯は美的情操のうえに大切な意義を有していると思うのである、美人の要素の一つといはれるのも、歯や歯齦の美しいということが顔全体の表情を活かしているからである。私は高校生の口腔検査をしたのは、今年始めてであるが美しい歯がその人一生の健康のために至上の宝であることを信ずるとともに、人になつかしみを與え、魅力をもつ点よりすると、どんなに心強い宝であるかしれないと、高校生とくに女学生の歯をみて強く感じたようなわけであるが、平素の心持によつて美しくも醜くもできるのであるから、自分自身のためにも、一家のためにも美しい健康な歯を持たれるよう切望します

コンサート開く

＝映画部主催＝

六月十七日、北校物理室で第一回映画部主催レコードコンサートが開かれた、凡そ百名の聴集者が集まり、今までの各部主催のレコードコンサートにみられない盛会であつた、『死の舞踏』『ボロネーズ』などは好評であつた

読書欄

ガリバー旅行記

ジョナサン・スウィフト　中野　好夫　訳

『ガリバー旅行記』といえば、ハハー『小人國』に潜いついたガリバーの愉快な物語かと本書を小

憧れの山へ

明米　野端

登山を遊戯的のみに考えているようだが、私は山こそ人生修養の神聖なる道場であり社会生活の第一歩であると考えている。山頂の濃密なる空氣、疎林をすかしてさす陽ざし、朝の雲海の大観、夕霧の迫つてくる渓谷の美しさなど、崇高なる山の景観を眺めるとき、あらゆる邪意や疑惑は一度に霧散する。山は崇拝する師であり、また親しき友である。山は教室で学べない経験や民主生活、自制力などを與えてくれる。山はわれわれの登山を大手を拡げて待つているのだ。

☆　☆

山岳部長

映画批評

イースター　パレード

『健康な笑いと楽しみ』イースター、パレードはこの一言につきるといえよう。何も強調されるものなしに楽しみながら夢が抱けるのは色彩の音楽や演技との見事な調和とともに今までの音楽映画に感じられない美しさをあらゆる点で持つて居り、ストリーの中に音楽やダンスが流れているのではなくて、むしろ音楽やダンスそのものが立派なストリーをなしていることを感じさせる巧みさは新人監督チャールス・ウオルターズを一流に押し上げている。全巻を通じて依然かわらぬアステアの素晴らしい踊りと、アーヴイング・バーリンの物語的な軽快なメロデーは観客をかんぜんに魅了しつくしているが、とくにハツピー・イースターの歌ではじまるプレソド・デステアの玩具屋でのドラム・クレイジイ、ジークフエルドにおける黒と黄の衣装をつけ灰色の幕を背にして踊る群舞はデン・ミラーのタツプフロは印象的であつた。以上大分誉めあげたようであるが、要するにこの映画は豪華な衣裳をつけたモデルのつぎからつぎへと現われて観客の目を奪うシーンそのものでいうかえれば、あまりにもアメリカ的な美しい映画で、その色彩の完璧な効果はイースター、パレードの價値を数段たかめていると同時に、それ故にこの映画を色彩から離れては考えられないものにしている（Z・Y）

太陽の誕生と死

星の進化と原子エネルギー

ジョージ・ガモフ著

あらゆる生命や財産を太陽から來る輻射エネルギーによつているが、われわれ地球表面に住む人間によつて、われわれの太陽はどうして出來たのであろうか、何によつて熱を保ち、輝を続けているのであろうか、という事はひとしく知りたいものである問題であり、しかも從來の科学からして、最も大いなる自然の謎であつた。この問題で最近の廿年間の飛躍的進歩により如何に解明されたかが宇宙の進化の概観を示す基本的発見や学説と共に明に書きつられており、しかも、ふれている多くの見解は、極めて最近にわかつたことで、未だ通俗書の中に取りあげられていないものばかりであるのに汗顔すべき所謂の原子爆弾に興味がある。なお著書は現在、ワシントン大学教授、科学の複雑な分野を魅力的かつ、ポピュラーな筆によつて説明しているので、有名で『地球の傳記』等の著書がある

（白揚社　一九〇円）

野性の呼び声

ジャック・ロンドン著　山本　政喜　訳

この物語はその題名の示す通り、アメリカ南部の富裕な家の飼い犬バツクが盗まれてアラスカの黄金熱の中に移され、荒涼たる雪の平原の中に生活するうちに、太古の密林の中を自由にかけまわつていた祖先の野性が一群の頭として目ざましい成長とともに、次第によみがえつてくるのが、その旺盛な自然への適應性を伴なつて、実に詳細にかきつくされている。ジヤツク・ロンドンお得意の動物文学の傑作で、同著書の作品としては、同じく有名な動物文学『ホワイト・フワンガ』が、すでに万有社から発刊され、好評を博している

（吉竹）

二篇を読まないでも、後半の第三篇第四篇は好感にかかはらず是非読むべき傑作である

（講談書房　一四〇円）

斉田女史独唱会終る

さる七月十一日本校南講堂で昨年に引つづき世界的なアルト歌手斉田愛子女史の独唱会が開かれ多数の音楽愛好者に深い感銘を與えた、なお近く市公会堂でソプラノ歌手大谷列子嬢の独唱会が開かれる。

編集後記

一学期も已に終りに近すき、休暇も間近にせまりました。

今回は予算会議その他諸事情のため予定より発刊が遅れ、更に今学期は八号、九号の二回しか発刊出來なかつたことを深くおわび致します。

×　×

次号は來学期の九月中旬頃の予定であり、スポーツシーズンに應えて特集も計画、部員一同大いに張切つておりますから御期待下さい

×　×

なお本号は期日の切迫のため取急ぎ編集致しましたので粗雑な点はお許し願います。（TO）